

第 6 回審議会資料の位置づけ

1 現状・課題の客観的分析・確認等

- ・本市の財政構造（他都市と比べて全体的に歳出水準が高い）
- ・財政が厳しくなった理由（収支の不均衡→負担の先送り→将来負担の増大）
- ・国の義務付けのない歳出（収支の不均衡の一因）には何があるのか
- ・高齢者人口の増加，それを支える生産年齢人口の減少（社会福祉の増大・持続困難の一因）
- ・中期財政収支見通しと今後必要な改革規模

2 対策の方向性（第 2 回会議以降， 5 回に分けて議論）

① 歳入

- ・ 京都の強みを税収増につなげるまちづくり
- ・ 課税自主権の更なる活用
- ・ 保有資産の総点検と更なる活用 など

② 歳出

- ・ 国の義務付けのない歳出等の点検
（社会福祉施策，他会計繰出金，その他の事業）
- ・ 効果的な投資事業の推進と公共施設の総量の縮減
- ・ 行政の仕事のあり方の見直しと効率的な執行体制の確立 など

歳入増加に向けた取組

1 京都市の税収構造

京都市の税収構造の分析
課税自主権の活用状況

- ・ 今後，税収等をはじめとする歳入増加を進めていくにあたって，どのような視点が必要か
- ・ 更なる課税自主権の活用に向けてどのような手法が考えられるか

2 京都の強みを税収増加につなげるまちづくり

京都市における税収増加に向けた取組の現状・課題や他都市の事例
税収増加につなげるための今後の取組の視点

- ・ 税収増加に向けて解消すべき具体的な課題は何か
- ・ 京都の強みを税収増加につなげるために具体的にどのような施策が有効か

3 地方交付税の必要額の確保や府市協調の更なる進化

地方交付税の現状と課題
府市協調事業の取組状況と今後のあり方

- ・ 地方交付税の必要額の確保に向け，国へ効果的に働きかけるための手法
- ・ これまで進めてきた府市協調の取組を更に進化させるための今後の方向性

